

新年を迎え、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

昨年は、「東日本大震災」からの復旧・復興に取り組む中で、「九州北部集中豪雨」をはじめ多くの自然災害が発生しました。また、円高の進行等を背景に西日本を中心に木材価格が大幅に下落するなど、森林・林業・木材産業全般が多くの試練に見舞われました年でもありました。

本年も引き続き、震災その他の災害からの復旧・復興に全力を挙げるとともに、川上から川下まで、切れ目なく総合的に施策を講じて、飛躍の一年となるべく取り組んでまいります。

年頭所感

私は、昨年9月の林野庁長官就任以降、被災地を訪問し、その現状を目の当たりにするにつけ、大震災からの復旧・復興と原発事故への対応に、真摯に取り組む必要性を改めて痛感いたしました。津波により壊滅的な被害が生じた海岸防災林については、「みどりのきずな再生」の考え方のもとに、その復旧・再生に取り組んでいるところです。本年は、基盤造成が完了したところからNPOや企業の皆様とも連携しながら植栽に取り組んでいくこととしております。

森林の除染については、被災地の皆様の思いを十分受け止め、各種の技術開発等を引き続き推進

するとともに、地域再生の観点から、間伐等の森林施業と放射性物質対策を組み合わせた施策を提案してまいります。原木しいたけ等については、出荷制限地域が拡大するなど全国的に大きな影響が出ております。昨年に引き続き、きのこ原木の供給量の掘り起こし、原木購入経費の支援等を行います。安全なきのこの安定的な供給に努めてまいります。

森林・林業の再生の取組については、各地でいろいろな芽が始めています。今年も、そうした芽が力強く育つとともに、もっと多くの芽が出て、森林・林業の再生が本格化していく一年とする決



意です。

現在、我が国の森林は、資源として本格的に利用可能な時期を迎えつつあります。木材を有効活用し、森林・林業の再生に確実に繋げていくためには、需要拡大に向けた取組とともに需要者側のニーズに応じた木材を安定的に供給できる体制を構築することが重要です。

そのためには、公共建築物等への地域材の活用や未利用間伐材等の木質バイオマスの利用拡大等を推進するとともに、A材からD材までの丸太を、製材用・合板用・燃料用など適材適所で利用することにより、森林資源の価値を最大限に発揮させ

ることが重要です。

川上においても、フォレストアスター等人材育成を推進するとともに、森林経営計画の作成の促進と併せて施業の集約化や路網の整備を図ることにより、持続的な森林経営を確立するための取組を推進します。また、地球温暖化対策として、森林吸収量を2013年から2020年まで平均で3.5%確保できるよう、森林の整備・保全等の推進を図ってまいります。

森林・林業の再生には、森林・林業を支える山村の振興も不可欠と考えています。地域住民等が協力して、住居周辺の森林の手入れを行ったり、地域に眠る様々な未利用資源を最大限に活用してまいります。

国有林野事業については、本年4月から一般会計に移行することとしております。

一般会計化後においては、その組織・人材を、より一層地域に開いて、民有林との連携を深めていくことが重要と考えております。公益重視の管理経営の一層の推進はもとより、我が国の森林・林業の再生や地域の活性化など、国有林野事業に求められる役割の発揮に努めていく考えです。

私は、森林・林業は多くの可能性を秘めた、「伸びしろ」の大きい分野だと信じています。今は多くの障害が立ちほだかっていますが、林業や木材産業に携わる関係者の皆様と行政が連携して、地域の実情に応じた戦略を立て、国の施策も活用しつつ、工夫を凝らしながら意欲をもって取り組んでいけば、必ず森林・林業は再生すると考えています。皆様には、今年も、林野行政への一層の御支援・御協力をお願いいたします。

結びに、全国各地の森林・林業・木材産業の発展と、皆様の益々の御健勝と御発展を祈念申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。